

EV電池から 希少金属回収

三菱マテリアル、年4万台分

両社は電池から出た「ブラックマス」と呼ばれる粉を硫酸などに浸し、こ

三菱マテリアルは電気自動車（EV）などの使用済みリチウムイオン電池から希少金属（レアメタル）をリサイクルする事業に本格参入する。2025年度に始め、30年度をめどに処理能力を年6000トに高める。単純計算でEV4万台分以上に相当する。EVの普及でレアメタルは需給逼迫が懸念される。経済安

保の観点も踏まえ国内資源を循環できる体制を整え、一部の資源国や生産国に調達を依存するリスクを回避する。EV向けで主流のリチウムイオン電池は主要部材の正極材にコバルトやリチウムなどのレアメタルを使うが、供給不安を

ロ・ホールディングスと組み、使用済み電池からリチウムやコバルトを取り出す事業を展開する。投資額は数十億円になる見込み。

リチウムなどは特にリチウムイオン電池から低価格で取り出すのは技術的なハードルが高い。廃EV電池は溶融して鉄鋼原料など金属原料にする

三菱マテリアルは金属リサイクル業のエンビプロ社は電池から出た「ブラックマス」と呼ばれる粉を硫酸などに浸し、こ

三菱マテリアルは銅の製錬ノウハウなどを生かし、レアメタルを取り出す工程の効率の向上をめ

リサイクルする電池の原料構成にもよるが、6000トのブラックマスから約500トのコバルトが回収できるという。